



神戸にある加藤海運（株）本社ビルの前にて

大分に決めた理由はもう一つあります。バレー界は中学も高校も男女ともに九州のレベルが非常に高い。しかし、トップリーグのチームが少ないため、里帰りできずに親もとを離れて就職したりしているんです。そこで、大学を卒業しても地元に戻ってこられるようなチーム作り、大分三好での活動が、その礎になればいいという思いもありました。

—— 今後の夢をお聞かせください。南 もちろんメインは経営者ですが、前職ではなかなかできなかった社会貢献活動、バレーの普及などの活動を積極的に行っていきたいと思っています。



PROFILE 南 克幸(みなみ・かつゆき) 1970年9月30日生まれ(43歳) 宮崎県延岡市出身 ミュンヘン五輪金メダリストの南将之氏を父に持ち、200cmの恵まれた体格を生かし宇都商高、法政大で活躍。大学時代に出場した1992年のバルセロナ五輪では6位に入賞。卒業後は、旭化成スパークスに入団し、ワールドカップ、世界選手権に出場するなど、全日本、Vリーグで活躍。2006年に旭化成が廃部となり、大分三好ヴァイセアドラーへ。2008年現役引退後は、旭化成ケミカルズに勤務。義父である、加藤栄一前社長の死去に伴い、2013年2月1日付で、1877(明治10)年創業・老舗海運業の加藤海運(株)代表取締役社長に就任した。

た800人強の皆さんの前で、妻と作った原稿を暗記し謝辞を述べる。これまで何度も世界の舞台に立つてきたので、緊張することなく、堂々と心を込めてお話しすることができたと思います。周りの皆さまからも、加藤海運での最初の任務が成功したと評価していただけたことで、私自身としても、支えてくれた妻のおかげでファーストステップはクリアしたという思いがこみ上げてきました。

—— 南さんの人生における一番の転換期は？ 南 2006年の旭化成バレー部の廃部です。それまでは勝手な人生設計をしていまして、現役を腹いっぱいやってコーチングの勉強をして旭化成のコーチ・監督・部長と、バレー界に依存しながらお世話になった恩返しをしたいと思い描いていました。ですが、廃部になったことで人生の目標が閉ざされてしまったんです。それはまるで私のそれまでの人生が否定されたかのようでした。

—— バレーで培った精神は会社経営でも生かされるのではないかと思うのですが。南 もちろんです。負けてたまるか、という気持。そしてもう一つ重要なのはチームワークです。私が選手として一番脂の乗っていたバルセロナ五輪の時の選手たちは、ふだんはみんなあまり仲よくないんですよ(笑)。ただ、試合でコートに立った時に一つにまとまって強い組織になる。6人がまとまってできたワンプレーの強さは言葉には表せない、真のチームワークを感じました。負けを、いいいいよ。と認め合う仲よしチームでは、勝つことはできません。当時は一番年下でしたが、年齢に関係なくお互いのプレーを指摘し合いながらも自らその言葉に責任を持ってプレーして

—— 現役引退から5年。サラリーマン生活を経て、今年2月に加藤海運の社長に就任されました。南 はい。まだ7カ月なので、社長と言われても正直、慣れない感じはありますね(笑) 2008年に37歳で現役を引退してから早いもので、もう5年が過ぎました。前職の旭化成では、社業に専念して、いきなり営業課長職でスタートさせていただきました。赴任当初、上司である事業部長から「覚悟して来たな」と、ひと言言われました。周りはもちろん、皆さん学業で上がってきたエリートたち。私自身、スポーツで培った心構えはありますが、同期とは仕事という面で10年以上キャリアが開いていました。「今までの功績は認めるけれど、これから好きなバレーも犠牲にして土日構わず仕事を覚えな」とこの世界、残っていけないぞ」という上司からのアドバイスは、まさにそのとおりだと思いました。ありがたいことに、バレー教室や講演会などのお話もいただきましたがすべてお断りしまして、引退後、5年間は、バレーボールと距離を置いて仕事に専念しました。

—— 昨年の末に、前社長で義理の父(加藤栄一前社長)が急逝。実はその2カ月くらい前から体調を崩し始めまして、その時に前社長から、会社を継いでほしい。と話があり、妻とも相談して最終的には跡を継ぐことを決めました。昨年、12月25日の役員会議の席で前社長が発表し、年明けの2月1日から入社する段取りになっていたのですが、当日、前社長の意識が朦朧とし始めて出社できる体調ではなくなっていました。そのため私一人で本社に出向きまして、役員会で自己紹介をしてすぐさま病院に駆けつけたのですが、その数分後に他界されました。加藤海運に入ってから初めての大仕事が就任5日後に行われた前社長とお別れの会でした。お集まりいただい



加藤海運(株)代表取締役社長

南 克幸

Katsuyuki Minami

皆さんとともに強いチーム作りを目指していきたいと思っています。

バレーボール界に縁のある旬の人々にスポットを当て紹介していく不定期連載「バレー人」。今回紹介するのは、ミュンヘン五輪金メダリスト南将之氏を父に持ち、バルセロナ五輪出場をはじめ、全日本でも活躍した名センタープレーヤー南克幸さん。今年、2月に加藤海運の社長に就任され、ビジネスの世界で新しい挑戦を始めた南さんにその思いを伺いました。

—— 現役引退から5年。サラリーマン生活を経て、今年2月に加藤海運の社長に就任されました。南 はい。まだ7カ月なので、社長と言われても正直、慣れない感じはありますね(笑) 2008年に37歳で現役を引退してから早いもので、もう5年が過ぎました。前職の旭化成では、社業に専念して、いきなり営業課長職でスタートさせていただきました。赴任当初、上司である事業部長から「覚悟して来たな」と、ひと言言われました。周りはもちろん、皆さん学業で上がってきたエリートたち。私自身、スポーツで培った心構えはありますが、同期とは仕事という面で10年以上キャリアが開いていました。「今までの功績は認めるけれど、これから好きなバレーも犠牲にして土日構わず仕事を覚えな」とこの世界、残っていけないぞ」という上司からのアドバイスは、まさにそのとおりだと思いました。ありがたいことに、バレー教室や講演会などのお話もいただきましたがすべてお断りしまして、引退後、5年間は、バレーボールと距離を置いて仕事に専念しました。

—— 昨年の末に、前社長で義理の父(加藤栄一前社長)が急逝。実はその2カ月くらい前から体調を崩し始めまして、その時に前社長から、会社を継いでほしい。と話があり、妻とも相談して最終的には跡を継ぐことを決めました。昨年、12月25日の役員会議の席で前社長が発表し、年明けの2月1日から入社する段取りになっていたのですが、当日、前社長の意識が朦朧とし始めて出社できる体調ではなくなっていました。そのため私一人で本社に出向きまして、役員会で自己紹介をしてすぐさま病院に駆けつけたのですが、その数分後に他界されました。加藤海運に入ってから初めての大仕事



—— 現役引退から5年。サラリーマン生活を経て、今年2月に加藤海運の社長に就任されました。南 はい。まだ7カ月なので、社長と言われても正直、慣れない感じはありますね(笑) 2008年に37歳で現役を引退してから早いもので、もう5年が過ぎました。前職の旭化成では、社業に専念して、いきなり営業課長職でスタートさせていただきました。赴任当初、上司である事業部長から「覚悟して来たな」と、ひと言言われました。周りはもちろん、皆さん学業で上がってきたエリートたち。私自身、スポーツで培った心構えはありますが、同期とは仕事という面で10年以上キャリアが開いていました。「今までの功績は認めるけれど、これから好きなバレーも犠牲にして土日構わず仕事を覚えな」とこの世界、残っていけないぞ」という上司からのアドバイスは、まさにそのとおりだと思いました。ありがたいことに、バレー教室や講演会などのお話もいただきましたがすべてお断りしまして、引退後、5年間は、バレーボールと距離を置いて仕事に専念しました。

—— 昨年の末に、前社長で義理の父(加藤栄一前社長)が急逝。実はその2カ月くらい前から体調を崩し始めまして、その時に前社長から、会社を継いでほしい。と話があり、妻とも相談して最終的には跡を継ぐことを決めました。昨年、12月25日の役員会議の席で前社長が発表し、年明けの2月1日から入社する段取りになっていたのですが、当日、前社長の意識が朦朧とし始めて出社できる体調ではなくなっていました。そのため私一人で本社に出向きまして、役員会で自己紹介をしてすぐさま病院に駆けつけたのですが、その数分後に他界されました。加藤海運に入ってから初めての大仕事